



11月度の御書

「衆生身心御書」

御文

福田^{ふくでん}によきたね^{よきたね}を下ろ^{おろ}

させ給^{たま}うか。なみだ^{なみだ}もと止^{とど}

どまらず。

(御書新版2047ページ・御書全集1596ページ)

意味

あなたの生命^{せいめい}に、仏^{ほとけ}になる

種^{たね}をまかれたのか。あつい志^{こころざし}に

涙^{なみだ}もとまりません。

相手に思いやる真心の人に

やあみんな！ ボクはライオン博士^{はかせ}のキング君^{くん}。今日は、ある昔話^{むかしばなし}を紹介するよ。

むかし、むかし、インドに徳勝^{とくしょう}と無勝^{むしょう}という二人^{ふたり}の子どもがいました。ある日、彼らの村に釈尊^{しゃくそん}がやってきます。釈尊は、人々を幸せにするために仏法^{ぶつぽう}を初めて説いた人で、釈尊から仏法を聞いた人は感動し、感謝の思いをこめて食べ物や着る物をおくりました。

ところが、徳勝と無勝には、釈尊に差し上げるおくりものが何もありません。しかし、なんとしても、感謝の気持ちを伝えたいと考えました。「そうだ、土のおもちを差し上げよう！」徳勝が一生けんめいに土をこねて作ったおもちを差し上げ、無勝が手を合わせて見守りました。釈尊はほほえんで受け取り、言いました。「この子は100年後、インドを平和にするすばらしい王になるだろう」

その言葉通り、のちに生まれたのがアショーカ大王で、平和で豊かなインドの国をきずいたのです——。お話はここまで！

徳勝がおくったのは、食べることができない「土のおもち」だったのに、なぜ、立派な大王になることができた

たんだろう？

それはね、徳勝の土のおもちには、釈尊に喜んでほしいという「真心」がこめられていたから。思いやりの心を持つ徳勝だからこそ、やがてみんなを幸福にする大王になることができたんだ。立派な人になるために大切な

のは、物や力じゃなくて「心」なんだね。今回の御文は、はるばる山おくまで日蓮大聖人を訪ね、品物を届けた弟子におくられた一節だよ。師匠のことを思って、勇かんに行動する弟子の「心」を大聖人は喜ばれ、“あなたの心に、仏になる種がまかれていますよ” “その尊い心を思うと涙がとまらない” と深く感謝されたんだ。

池田先生は語られているよ。

「みなさんも、いつまでも、『人のためにという心』『人を思いやる心』を持ち続けてください。その心には、『勝利の太陽』がのぼります。心に『勝利の太陽』がかがやけば、自分自身はもちろん、お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさん、周りの友だち、さらには世界の人たちまで、明るく照らしていくことができます」

今日も心に太陽をのぼらせて、笑顔の輪を広げていこう～！